

教 養 学部 Liberal Arts

4年間のカリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次
学修の流れ	アカデミック・スキルズや外国語などで、大学での学びの基礎体力をつけつつ、所属専修課程・専攻を選ぶ準備をします。	専修課程・専攻での学びがスタート。専門分野の基礎を学ぶ講義から、実習、研究方法、演習まで幅広く学びます。	専修課程・専攻での学びと研究をさらに深める時期ですが、他の専修課程の授業を取るなど、学びの幅を広げるチャンス。	学びと研究の総仕上げとして、卒業研究に取り組みます。
外国語科目	英語スキル教育科目群、外国語科目群			
基盤科目	アカデミック・スキルズ、情報基礎、データサイエンス入門	社会科学科目群、自然科学科目群、学際領域科目群、AL科目群		
専門科目	基礎講義	国際政治学入門、社会学入門、歴史学入門、ヨーロッパ研究入門、日本・アジア文化論		
	語学	Integrated English Skills、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、韓国語		
	実習・研究法	世界政治の分析手法、文化人類学実習、芸術論研究法、社会科学のサーチ・メソッド、韓国文化研究法		
	講義	国際紛争の平和的解決、Contemporary International Affairs、西アフリカ民族誌、現代哲学、東アジア考古学、アメリカ社会概論、日本語の歴史、中国文化の現在		
	演習	開発経済学演習、メディア論演習、言語学演習、ヨーロッパ文化演習、日本古典演習		
	多文化理解科目	現代のジェンダー、世界の中の日本文化		
	自由選択科目	他専修課程・他学部の専門科目		
				卒業研究

専門科目の欄では、5つの専修課程で開設する科目の一部を紹介しています。

在学生の声

広く、深く。

Voice.
1

私は高校時代から国際関係に強い興味がありましたが、就きたい職業や成し遂げたいことが決まっている訳ではありませんでした。そのため、自分の将来を学部の専門性によって狭めず、大学で夢を見つけられるようなところへ行きたいと考え、幅広い分野に触れることができるという特色を持つ教養学部で学ぼうと決めました。語学はもちろん国際開発の仕組みや社会学など沢山のジャンルに触れることで、「国際」という広すぎる枠の中で自分が何をしたいのかが明確になっていきました。現在は国際政治経済学を中心に、政治的な転換や環境問題が世界経済、そして私たちの生活にどのような影響を与えるのか、について学んでいます。将来はここで培った複合的なものの見方とコミュニケーション能力を活かしたキャリア形成をしていきたい、と考えています。

グローバル・ガバナンス専修課程 国際関係論専攻 西木 亮郁さん
さいたま市立浦和高等学校 出身



時間割表

2年次
第3ターム

	mon	tue	wed	thu	fri
1		集団の社会心理学		環境政策論	
2	Academic English Skills 2c		漢字文化圏比較論	環境政策論	
3	アメリカ史概論Ⅱ	日本のパブリック・ディプロマシーと文化		武力紛争法	経済事情
4	市民と憲法	国際政治経済学概論		現代社会論	
5		国際法学入門	Microeconomics		

科目紹介

Development Economics

開発経済学に関する基礎理論を習得した上で、データや実例などを通じて発展途上国が直面している開発の諸問題を探究し、その解決策を考察できるようになるための基礎能力を養います。

哲学史概説 B

カントからプラグマティズムまで、ヨーロッパ近現代における哲学の流れを概観しつつ、哲学者たちの言葉や概念を活かして、人間や文化についてみずから考える可能性を探究していきます。

Contemporary Art and Media in Australia and Asia I

オーストラリアの大学の研究者と共同で、ゲストレクチャーを活用した授業を行います。アジア、オセアニア、日本の近現代における視覚芸術と視覚表現様式を学ぶことを目的としています。

メディア論演習Ⅹ

2つの相対する集団とジャーナリストたちの3つのグループに分かれて、戦略的コミュニケーションの過程のダイナミクスを学生たち自身で実際に作り出してもらいます。このチーム同士の「競争」を、3ヶ月間実際に実践します。

日本近現代文学演習Ⅲ

明治期から昭和の戦後期にかけて発表された短編小説を、おもに「都市」という視点から読み解くことによって、日本文化の重要な側面についての理解を深め、文学研究の可能性について考えます。

アカデミック・スキルズ

資料や情報の探し方からレポートの作成方法まで、大学における学びと研究に必要な基礎知識・技術を身につけることを目指す、新入生のための授業です。

Integrated English Skills

〈読む・書く・話す〉という英語における3つのスキルを一体化した科目。具体的なシチュエーションを想定し、実践的なコミュニケーション能力を養います。



ヨーロッパ近代社会文化史Ⅱ



日本近世文学演習Ⅲ

卒業論文・研究タイトル例

グローバル・ガバナンス専修課程	A Study on the Effectiveness of Compusory Disupute Settlement Procedures under UNCLOS 開発援助と海外直接投資の関係 —日本の対東アジアにおける分析—
現代社会専修課程	若者が「痩せたい」と発言をする社会的要因についての考察 —男女大学生の体型認識に関するアンケート調査から— 北海道のアイヌ神謡に見る人々と鳥類との関わり方はどのようなものか
哲学歴史専修課程	ミルの功利主義を理解—快楽の分類と『自由論』から— 「赤い蠟燭と人魚」の比較から探る絵本の可能性 革命の殉教者からみるフランス革命 —ルベルティエとマラーを例に、革命は断絶か連続か—
ヨーロッパ・アメリカ文化専修課程	英語学習におけるリスニングの位置づけ —日本人EFLが抱える課題への学習ストラテジーの検討— 都市におけるアメリカン・ドリーム幻想 —ボルチモアから見る都市の繁栄とその現実—
日本・アジア文化専修課程	教科書文学教材から見える日本の国語科教育 韓国のオンラインコミュニティにおける#MeToo運動 —ソウル大学の竹林を中心に—

多角的な学びを得る

Voice.
2

高校2年次に訪中プログラムに参加したことが進路を決定するきっかけとなりました。ただ日頃のニュースを何気なく見ているだけでは見えてこない「リアルな中国」を見ることができたように感じ、中国が抱える問題や今後について学びたいと考え、教養学部を志望しました。入学当初から東アジア文化専攻を希望してはいましたが、1～2年次の履修では西洋文化や日本語学など幅広い分野についても学びました。

現在は中国や韓国の近現代文化を中心に履修しています。勉強する際は、各国が抱えている諸問題を様々な論文を通して多角的に理解するよう努めています。また、私の専攻分野では日本文化についても学ぶことができます。「相手の事を知るためにまずは自分の事を知るべきだ」とよく言われるように、日本の歴史や文化にしっかりと向き合い、知識を得ることができるため、広い視野で課題を捉えることが出来るようになりました。今後は卒業論文作成に向けて研究を進めたいと考えています。

日本・アジア文化専修課程 東アジア文化専攻 川崎 寧々さん
大口明光学園高等学校 出身



時間割表

2年次
第1ターム

	mon	tue	wed	thu	fri
1	現代発達科学入門		現代発達科学入門		教育臨床学入門
2	Academic English Skills 2a	韓国文化特殊講義Ⅱ	中国文化の現在Ⅱ		教育臨床学入門
3	韓国文化研究法	中国古典演習Ⅲ		ドイツ語圏文化特殊講義Ⅱ	
4	中国近現代文化概説		中国近現代文化研究法	日本語教授法Ⅰ	
5					